

Newbridge Preprocessor

ソフトウェアのバージョン : 3.0

HP OpenView Performance Insight

ユーザーガイド

2007 年 4 月



法律上の表示

保証

HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書は保証を補填するものではありません。HP は本書に掲載されている技術的な誤記、誤植、欠落に対して責任を負いません。

ここに掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権

© Copyright 2002–2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Company から事前に書面による許諾を得ることなく、無断で複写、複製、翻訳をしてはならない。マテリアルに記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。

商標

Java™ は、米国 Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Oracle® は、米国 Oracle Corporation, Redwood City, California の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

その他の製品名は、それぞれの商標またはサービスマーク所有者の財産であり、これによって承認されています。

サポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

<http://www.managementsoftware.hp.com/>

これらの Web サイトには、HP OpenView の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。

HP OpenView のオンラインソフトウェアサポートでは、お客さまが自己解決できるための方法をご提供しています。サポートサイトでは、お客さまのビジネスの運用に役立つ対話形式の技術サポートツールに手早く効率的にアクセスできます。サポートサイトでは次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- サポートケースを登録/トラッキングする
- サポート契約を管理する
- HP サポート契約を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のソフトウェア利用者とディスカッションする
- ソフトウェアトレーニングの検索および登録を行う

サポートの多くでは、HP Passport へのユーザー登録とログインが必要です。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次の URL で確認してください。

http://www.hp.com/managementsoftware/access_level

HP Passport ID のご登録は、次の URL で行ってください。

<http://managementsoftware.hp.com/passport-registration.html>

目次

1	概要	7
	ネットワークから OVPI へのパフォーマンスデータの移動	7
	ユーザーの作業	8
	追加情報の入手先	8
2	Preprocessor のインストール	9
	インストールの前提条件	9
	Newbridge Preprocessor のインストール	11
	パッケージの削除	12
3	Newbridge データパイプのインストール	13
	円滑なインストールのためのガイドライン	13
	Newbridge データパイプのインストール	15
4	設定ファイルの編集	17
	設定ファイルのフォーマット	17
	設定ファイルのサンプル	17

1 概要

Frame Relay Report Pack または **ATM Report Pack** を実行していて、**Newbridge** デバイスからパフォーマンスデータを収集する場合、これらのデバイスから収集したデータは先に前処理をしてから、**OpenView Performance Insight (OVPI)** サーバーに送信してさらに処理する必要があります。

Newbridge Preprocessor は、**Newbridge MainstreetXpress 46020** によって集められたデータのフォーマットおよびフィルタリングを行います。フォーマットにより、**OVPI** サーバーが読み取ることができるファイルが生成されます。フィルタリングでは、データパイプがレポートパックの要求する統計情報を受け取れるようにします。さらに、フィルタリングにより、**OVPI** のパフォーマンスを低下させる大量の不要なデータを除外できます。

本ユーザーガイドでは、**Newbridge Preprocessor** のインストール方法、**Newbridge** データパイプのインストール方法、および各 **Newbridge** データパイプに付属の設定ファイルの編集方法について説明します。設定ファイルの編集は任意です。デフォルトをそのまま採用なさることを強くお勧めします。

ネットワークから OVPI へのパフォーマンスデータの移動

OVPI レポートで表示されるパフォーマンスデータは、レポートパックに関連付けられたベーステーブルに入っています。以降の手順では、このデータをネットワークの **Newbridge** デバイスからレポートパックのベーステーブルに移動する方法について説明します。

- 1 **MainStreetXpress 46020 Network Manager** は、**Newbridge** デバイスおよび **Newbridge** 以外のデバイスから統計データを収集し、バイナリデータファイルを生成します。
- 2 **ST_formatter** ユーティリティは、これらのバイナリデータファイルをアンパックして復号化し、フォーマットされたファイルを生成します。
- 3 **Newbridge Preprocessor** は、以下のタスクを実行します。
 - **ST_formatter** ユーティリティからの出力をフィルタリング
 - **ST_formatter** ユーティリティからの出力の割り当て
 - プロトコル固有のデータパイプへのデータの割り当て
 - **OVPI** に適した **ASCII CSV** ファイルへのデータの再フォーマット
 - **ASCII CSV** ファイルを読み取り、データパイプのフィーダーテーブルを生成するよう **OVPI** に指示

データパイプ フィーダーテーブルが生成されると、**OVPI** はそのデータを使用してレポートパックベーステーブルを生成できます。

ユーザーの作業

Newbridge Preprocessor は別個のパッケージですが、最低 1 つの Newbridge データパイプがインストールされていなければ動作できません。以下のタスクを実行してください。

- Newbridge Preprocessor をインストールする。
- Newbridge Preprocessor が正常にインストールされたことを確認する。
- プロシージャファイルがスクリプトを正しく呼び出すことを確認する。
- 次のレポートパックのいずれか（または両方）をインストールする。
 - Frame Relay Report Pack
 - ATM Report Pack
- 次のデータパイプのいずれか（または両方）をインストールする。
 - Newbridge Frame Relay Datapipe
 - Newbridge ATM Datapipe
- データパイプディレクトリから NEWBRIDGE/config ディレクトリに設定ファイルをコピーする

必要に応じて、設定ファイルを変更することもできます。ファイルの変更はファイルの編集によって行います。手順は、第 4 章「設定ファイルの編集」で説明します。特異なレポート要件がない限り、設定ファイルの編集は必要ありません。

追加情報の入手先

本マニュアルに関連するドキュメントには次のものがあります。

- 『Newbridge Preprocessor 3.0 Release Statement』（英語）
- 『Newbridge Frame Relay Datapipe 4.10 Release Statement』（英語）
- 『Newbridge ATM Datapipe 3.0 Release Statement』（英語）
- 『Frame Relay Report Pack 4.10 ユーザーガイド』
- 『ATM Report Pack 3.20 ユーザーガイド』
- OVPI Report Packs、CD-ROM リリースノート、2007 年 7 月

OVPI 上で動作するレポート機能についてのユーザーマニュアルは、次の Web サイトからダウンロードできます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

OVPI のマニュアルは [1. Product] で [Performance Insight] を選択すると表示されます。レポートパックおよびデータパイプのユーザーガイドは、[Performance Insight Reporting Solutions] の下に一覧表示されます。マニュアルのエントリは、そのマニュアルが Web に掲載された年および月を示します。マニュアルが改訂されて再度掲載されると、日付が変わります。改訂されたマニュアルはその都度掲載されるので、PDF ファイルと Web 版を比較して、新しいバージョンが掲載されている場合はダウンロードしてください。

2 Preprocessor のインストール

本章では、次の項目について説明します。

- インストールの前提条件
- Newbridge Preprocessor のインストール
- Newbridge Preprocessor の削除

環境変数は次のように表記します。{*VARIABLE*}

インストールの前提条件

Newbridge Preprocessor は OVPI のバージョンには依存しません。以下の前提条件があります。

- Perl 5.x
- ST_formatter ユーティリティ

ATM Report Pack および Frame Relay Report Pack は前提条件ではありません。どちらのレポートパックも、Newbridge Preprocessor と同時にインストールすることも、Newbridge Preprocessor をインストールした後でインストールすることもできます。

ST_formatter ユーティリティの実行

ST_formatter は MainStreetXpress 46020 Network Manager から取得したバイナリデータを再フォーマットして、さまざまなフォーマットの ASCII 出力ファイルを生成します。以下のように指定して実行してください。

```
ST_formatter -t -s -i -delim comma -field space -date yynd infile outfile
```

infile は 46020 からのファイルであり、*outfile* は Newbridge Preprocessor に送信する必要があるファイルです。ファイルは完全に送信する必要があります。これらのファイルが両方とも同じファイルシステム上にある場合、ST_formatter の出力ディレクトリから Newbridge Preprocessor の入力ディレクトリにファイルを移動 (コピーではなく) することでアーカイブできます。

パッケージの内容

Newbridge Preprocessor には、以下が含まれています。

- Perl スクリプト
- サンプルの設定ファイル
- Newbridge Preprocessor を制御するプロシージャファイル (.pro)

パッケージをインストールすると、プロシージャファイルは *scripts* ディレクトリに配置されます。プロシージャファイルは Perl スクリプトを呼び出します。インストール後、Perl スクリプトは *bin* ディレクトリに配置されます。

ディレクトリ構造

Newbridge Preprocessor は、特定のファイルとディレクトリが見つからなければ動作できません。詳細は、次の表を参照してください。

ディレクトリ	機能	デフォルト
Save	入力データのコピーを保持する	{NEWBRIDGE}/save
Config	データパイプパッケージに付属の設定ファイルを格納する	{NEWBRIDGE}/config
Out	Preprocessor の出力ディレクトリ	{NEWBRIDGE}/out
In	ST_formatter からの出力データの場所	{NEWBRIDGE}/in
Work	Preprocessor からの出力を格納する	{NEWBRIDGE}/work
trend.log	プロセスの開始時刻と終了時刻を記録する	{NEWBRIDGE}/tmp/trend.log

UNIX での Newbridge 環境変数の作成

これらのディレクトリのデフォルトの場所は、{NEWBRIDGE} という環境変数に基づいています。デフォルトの場所を使用するには、この変数を trendadm ユーザーに対して定義しておく必要があります。次の手順を実行します。

- 1 {DPIPE_HOME}/lib/Cshrc に移動します。
- 2 次の行を追加します。 **setenv NEWBRIDGE <directory>**
- 3 OVPI Timer を再起動します。

デフォルトを採用しない場合は、.pro ファイルを編集して、希望する値を入力する必要があります。

NT での Newbridge 環境変数の作成

環境変数の値を追加または変更するには、次の手順に従います。

- 1 trendadm としてログインし、[設定]>[コントロールパネル]の順に選択して[システム]をダブルクリックします。
- 2 [詳細設定]タブで、[環境変数]をクリックし、[新規]をクリックします。
- 3 [変数名]に「NEWBRIDGE」と入力し、[変数値]に希望するディレクトリを入力します。
- 4 [OK]をクリックします。



Windows 2000 では変更内容がレジストリに保存され、次回コンピュータを起動すると、自動的に使用可能になります。この操作を行う前に現在実行中のプログラムを終了し、再起動して新しい設定を有効にする必要があります。

Newbridge Preprocessor のインストール

レポートパックの CD から Newbridge Preprocessor を抽出し、お使いのシステム上の Packages ディレクトリにコピーするには、次の手順に従います。

1 システムにログインします。UNIX システムの場合は root でログインします。

2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを実行します。

```
HP-UX: sh /sbin/init.d/ovpi_timer stop
```

```
Sun: sh /etc/init.d/ovpi_timer stop
```

3 レポートパックの CD を CD-ROM ドライブに挿入します。Windows ではメインメニューが自動的に開き、UNIX では CD が自動的にマウントされる場合とされない場合があります。CD が自動的にマウントされない場合は、CD の最上位ディレクトリに移動して ./setup コマンドを実行してください。

4 選択フィールドで 1 と入力して OVPI レポートパックを選択します。[Enter] を押します。インストールスクリプトは進捗バーを表示します。抽出処理が終わると、インストールスクリプトはパッケージマネージャを起動します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。

5 OVPI ユーザー名とパスワードを入力してログインします。

6 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。

7 [インストール] をクリックします。デフォルトのインストールディレクトリをそのまま受け入れるか、別のディレクトリを選択します。

8 [次へ] をクリックします。[OVPI レポートの配布解除] ウィンドウが開きます。

9 [レポートの配布] のデフォルトを無効にし、アプリケーションサーバー名とポートのデフォルトを受け入れます。(レポートを伴うパッケージもインストールしている場合は、Deploy Reports のデフォルトをそのまま採用してください。)

10 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。

11 次の項目の横にあるチェックボックスをクリックします。
Newbridge Preprocessor 3.00

12 [次へ] をクリックします。[タイプの検出] ウィンドウが開きます。パッケージのインストール直後に [タイプの検出] を実行するには、デフォルトのままにします。

13 [次へ] をクリックします。[概要] ウィンドウが開きます。

14 [インストール] をクリックします。[インストールの進捗状況] ウィンドウが開きます。インストールが完了すると、パッケージのインストール完了メッセージが表示されます。

15 [完了] をクリックして [管理コンソール] に戻ります。

16 OVPI Timer を再起動します。

Windows NT: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。

```
HP-UX: sh /sbin/init.d/ovpi_timer start
```

```
Solaris: sh /etc/init.d/ovpi_timer start
```

正しいインストールのテスト

Newbridge Preprocessor が正しくインストールされていることを確認するには、DPIPE_HOME ディレクトリでコマンドプロンプトを起動し、次のコマンドを入力します。

```
perl bin/newbridge_preprocessor.pl -h
```

Newbridge Preprocessor が正しくインストールされていれば、ヘルプウィンドウが表示されます。

.Pro ファイルのテスト

プロシージャファイルがスクリプトを正常に呼び出すことをテストするには、次の手順に従います。

- 1 ソースディレクトリにファイルが入っていないことを確認します。
- 2 DPIPE_HOME ディレクトリのコマンドプロンプトから次のコマンドを入力します。

```
trend_proc -f scripts/NewbridgePreprocessor.pro
```
- 3 Trend ログに移動して、ログのエントリに、スクリプトの開始および停止が示されているかどうかを確認します。

出力ディレクトリ

Newbridge Preprocessor をインストールすると、Newbridge データパイプの SourceDirectory として機能する出力ディレクトリが作成されます。パスは次のとおりです。

```
{DPIPE_HOME}/data/ImportData/Newbridge
```

出力ディレクトリの場所は固定されています。この値は変更しないでください。

パッケージの削除

Newbridge Preprocessor をアンインストールするには、次の手順に従います。

- 1 OVPI Timer プロセスを停止し、プロセスが終了するのを待ちます。
- 2 パッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。
- 3 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 4 [アンインストール] をクリックします。[パッケージの選択] ウィンドウが開くので、[Newbridge Preprocessor] を選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。[概要] ウィンドウが開きます。
- 6 [アンインストール] をクリックします。[進捗状況] ウィンドウが開き、削除が開始されます。
- 7 パッケージ削除完了メッセージが表示されたら、[完了] をクリックします。
- 8 OVPI Timer を再起動します。

3 Newbridge データパイプのインストール

本章では、次の項目について説明します。

- 円滑なインストールのためのガイドライン
- **Source** 指令と **Disposition** 指令
- Newbridge データパイプのインストール

円滑なインストールのためのガイドライン

以下のデータパイプは、2007年4月のレポートパック CD に収録されている Newbridge Preprocessor によって配布されます。

- Newbridge Frame Relay Datapipe 4.1
- Newbridge ATM Datapipe 3.0

CD を CD-ROM ドライブに挿入し、指示手順に従ってパッケージを CD からお使いのシステムの Packages ディレクトリに抽出してください。抽出が終わると、OVPI を起動してパッケージマネージャを開始するように指示されます。

パッケージの内容

Newbridge データパイプパッケージの内容は次のとおりです。

- テーブルおよびファイルフォーマットを定義する **TEEL** ファイル
- **ee_collect** および **trendmapper** への呼び出しを制御するプロシージャファイル (.pro)
- 主要なデータを書式化する **rex** ファイル
- データをレポートパックに入れるローテーションファイル
- Newbridge Preprocessor 用の設定ファイル

データパイプをインストールすると、特定のファイルが再配置されます。

- **ee_collect** および **trendmapper** への呼び出しを制御するプロシージャファイルは **scripts** ディレクトリに移動します。
- **rex** ファイルは **bin** ディレクトリに移動します。

インストールの前提条件

Newbridge データパイプの前提条件は次のとおりです。

- OVPI 5.2 以降
- OVPI 5.2 に提供されているすべてのサービスパック
- Newbridge Preprocessor 3.0
- 次のレポートパックのうち少なくとも 1 つ
 - Frame Relay Report Pack
 - ATM Report Pack

Newbridge Preprocessor、レポートパック (1 つまたは両方)、Newbridge データパイプ (1 つまたは両方) は、同時にインストールできます。

分散環境

OVPI システムが分散システムの場合、インストールプロセスはより複雑です。Newbridge データパイプはポーリングを実行するすべてのサーバーにインストールする必要があります。通常は、分散環境の中央サーバーではポーリングは行いません。

入力ファイル名

Newbridge Preprocessor は `ee_collect` に適した ASCII CSV ファイルを作成します。ファイル名は、元のスイッチファイル名と、設定ファイルでそのクラスに割り当てられている Newbridge のクラス番号またはクラス名のどちらかを使用しています。番号またはクラスの後ろの文字列は、`raw` (カウント) データであるか `rate` (デルタ) データであるかを表しています。

ATM データパイプ用に生成された出力ファイル名の例を以下に示します。

- `filename.2.count` はクラス番号を使用しており、ATM PVC `raw` データを含んでいます。
- `filename.atm_pvc.count` はクラス名を使用しており、ATM PVC `raw` データを含んでいます。
- `filename.6.delta` はクラス番号を使用しており、ATM Port `rate` データを含んでいます。
- `filename.atm_port.count` はクラス名を使用しており、ATM Port `rate` データを含んでいます。

接尾辞は Newbridge Preprocessor 設定ファイルの `CLASSNAME` 指令から由来しています。

Source 指令と Disposition 指令

TEEL ファイルはテーブルのフォーマットを定義し、指令も含んでいます。指令にはプラットフォームに固有なものと、カスタマまたはサイトに固有なものがあります。その指令がプラットフォーム、カスタマ、またはサイトのどれに固有なものであるかは、ファイル自身に示されます。

SourceDirectory

SourceDirectory の指令は、Newbridge Preprocessor の出力ディレクトリへのパスを示します。SourceDirectory は次のとおりです。

```
{DPIPE_HOME}/data/ImportData/Newbridge_Preprocessor
```

Newbridge Preprocessor の出力ディレクトリは固定されており、データパイプのインストール直後に SourceDirectory のパスを変更する必要はありません。

SourceDisposition

SourceDisposition の指令は、ee_collect がファイルの収集後にそれらのファイルで何を行うか、およびそれらのファイルの配置先を示します。デフォルトの SourceDisposition は次のとおりです。

```
{NEWBRIDGE}/eecollected
```

配置を変更する場合、または同じ配置を使用するがインストール先ディレクトリを変更する場合は、データパイプのインストール直後に SourceDisposition 指令を変更します。

Preprocessor 用の設定ファイル

各データパイプパッケージには、Newbridge Preprocessor 用の複数の設定ファイルが含まれています。これらの設定ファイルは、データパイプのインストール直後にインストールディレクトリからプリプロセッサの設定ディレクトリにコピーする必要があります。デフォルトの設定ディレクトリは、NEWBRIDGE 環境変数を使って定義されます。

Newbridge データパイプのインストール

タスク 1～4 に従って、Newbridge データパイプをインストールします。

タスク 1: パッケージマネージャを使用してデータパイプを選択してインストールする

1 システムにログインします。UNIX システムの場合は root でログインします。

2 OVPI Timer を停止させ、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを実行します。

```
HP-UX: sh /sbin/init.d/ovpi_timer stop
```

```
Sun: sh /etc/init.d/ovpi_timer stop
```

3 Performance Insight を起動し、[管理コンソール]を選択します。

4 [ツール]>[パッケージマネージャ]の順に選択します。パッケージマネージャの[ようこそ]ウィンドウが開きます。

5 [次へ]をクリックします。[OVPI パッケージの場所]ウィンドウが開きます。

6 画面の指示に従います。

- プロンプトが出たら、OVPI ユーザー名とパスワードを入力します。

- **Deploy Reports** のデフォルトを採用するかキャンセルするかをたずねられたら、レポートを含むパッケージもインストールしている場合は、デフォルトを採用し、そうでない場合はデフォルトを無効にしてください。
- [パッケージの選択] ウィンドウが表示されるので、次のデータパイプのいずれかまたは両方を選択します。

— Newbridge Frame Relay Datapipe 4.1

— Newbridge ATM Datapipe 3.0

インストールが完了すると、パッケージのインストール完了メッセージが表示されます。

7 [完了] をクリックして [管理コンソール] に戻ります。

タスク 2: 必要に応じて TEEL ファイルを変更する (デフォルトが適している場合はこのタスクは省略)

1 **TEEL** ファイルの **SourceDirectory** 指令を確認します。これらのファイルはデフォルトの **SourceDirectory** を示しています。

```
{NEWBRIDGE}/out
```

2 **Newbridge Preprocessor** でデフォルトのディレクトリを使用しない場合は、**SourceDirectory** パスを変更します。**SourceDirectory** 指令を変更する場合は、ディレクトリだけを変更し、ファイル自体のパターンマッチ (たとえば、*.atm_port*) は変更しないでください。データパイプにはパターンマッチが必要です。

3 **SourceDirectory** で {NEWBRIDGE} 環境変数を使用する場合は、**trendadm** ユーザーに対して正しく設定されていることを確認してください。

4 **SourceDisposition** のデフォルトの指令を使用しない場合は、適切な **TEEL** ファイルを開き、該当する指令を変更します。

5 **SourceDisposition** で {NEWBRIDGE} 環境変数を使用する場合は、**trendadm** ユーザーに対して正しく設定されていることを確認してください。

タスク 3: 設定ファイルを適切な設定ディレクトリにコピーする

1 インストールディレクトリの場所を指定します。命名規則は次のとおりです。

```
{DPIPE_HOME}/packages/datapipe directory/datapipe.ap
```

2 設定ファイルの場所を指定します。命名規則は newbridge.* です。

3 設定ファイルを {NEWBRIDGE}/config ディレクトリにコピーします。**Windows** システムに **Newbridge Frame Relay Datapipe** をインストールしている場合は、次の場所からファイルをコピーします。

```
%DPIPE_HOME%\packages\Newbridge_FR_Datapipe\Newbridge_FR_Datapipe.ap\newbridge.*
コピー先
%NEWBRIDGE%\config
```

タスク 4: OVPI Timer を再起動する

Windows: [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを実行します。

```
HP-UX: sh /sbin/init.d/ovpi_timer start
```

```
Sun: sh /etc/init.d/ovpi_timer start
```


4 設定ファイルの編集

各 Newbridge Datapipe に付属している設定ファイルは、Newbridge Preprocessor が出力する統計情報の種類を決定します。これらのファイルの編集はお勧めしません。ファイルを編集して Newbridge Preprocessor によるフィルタリングの実行方法を変えることができますが、これらのファイルを編集することはお勧めしません。

データパイプに付属の設定ファイルが設定ディレクトリに配置されないと、データパイプは正常に動作しません。このディレクトリへのパスの詳細は、10 ページの「ディレクトリ構造」を参照してください。

カスタマイズしたデータパイプをインストールしている場合は、設定ファイルもカスタマイズする必要があります。

設定ファイルのフォーマット

設定ファイルは ASCII テキストファイルです。設定ファイルの名前は、当該の Newbridge クラスによって決まります。たとえば、フレームリレーインタフェースの統計情報は newbridge.3 というファイルに定義されます。

設定ファイルのどの行にもコメントを入れることができます。コメントの始まりは、シャープ記号 (#) によって表されます。統計情報が必須であることを示すには、その Newbridge 識別番号を行に入力します。各行に 1 つの統計番号のみを入力してください。

CLASSNAME=<name> がサポートされています。この指令が設定ファイルで検出されると、クラス番号の代わりに <名前> を使用して出力ファイルが識別されます。使用可能な統計情報およびその番号付けに関する詳細は、Newbridge から提供されるマニュアルを参照してください。

次のページに設定ファイルのサンプルを示します。

設定ファイルのサンプル

```
#####  
# Version @(#) newbridge.1 /main/2 mcameron Fri Mar 30 15:15:30 2004 @(#)  
# Solutions Engineering Group  
# Copyright 2004, Hewlett-Packard Development Company, L.P.  
# Package: Newbridge FrameRelay  
#####  
# Each line contains a stat number within the stat class  
# OR  
# contains a label=value pair.  
# Currently the only supported label is CLASSNAME
```

the value for CLASSNAME will be used for the suffix of the output file
if there is no CLASSNAME defined then the numeric stat class will be
used.

CLASSNAME=fr_pvc

1# Rx Bytes (36120/36170)

2# Tx Bytes (36120/36170)

3# Rx Frames (36120/36170)

4# Tx Frames (36120/36170)

31# Rx Discards DE set (36120/36170)

32# Tx Discards DE set (36120/36170)

33# Rx Discards DE clear (36120/36170)

34# Tx Discards DE clear (36120/36170)

75# Rx frames DE bit set (36120/36170)

76# Tx frames DE bit set (36120/36170)

233# Rx Discards (36170)

319# Tx frames FECN set (36120/36170)

320# Tx frames BECN set (36120/36170)

619# Rx frames FECN set (36120/36170)

620# Rx frames BECN set (36120/36170)

1085# Tx Bytes DE set 1 (36170)

1301# Rx Bytes DE set 1 (36170)